



アコースティック・リヴァイブのインシュレーター [RKI-5005] (¥9,680 / 税込・4枚一組)



アコースティック・リヴァイブのグラウンディング・コンディショナー [RGC-24K] (¥96,800 / 税込) を試す福田屋



ティグロンのスタビライザー [BFA-CLAMP] (¥49,500 / 税込) も試す



ティグロンのターンテーブルシート [BFA-MAT] (¥19,800 / 税込)

の面白さに夢中だった。
 札幌時代で印象に残ったことは、三浦綾子の代表作「塩狩峠」。こんな衝撃的な話を1973年頃読んだ。小説の元になった鉄道事故が、宗谷本線の塩狩峠であった。最後尾の連結器が外れ、暴走を開始する列車の動きに身を挺して止めて殉職した、若い鉄道員の話である。彼は結婚を目前にしていた。結末の悲しさに、涙が止まらなかった。読み終えた次の休みに、塩狩峠へ向かった。どのような場所なのか知りたかった。

◆ こちらは進化が著しい
 アクセサリーもチェック

**手頃に音質強化を図れる
 アコリバの2製品を試した**

ここは最近テストして注目した製品を紹介するコーナーである。オーディオアクセサリーは多種多彩であるが、その効果はどの程度のものなのか。試用して魅力がある製品をピックアップする。

アコースティック・リヴァイブのインシュレーター RKI・5005は、軟性系素材では新しい効果を得られ、手頃な価格であり魅力的だ。中級アンプ、CDプレーヤー

1で活用したい。

また、グラウンディング・コンディショナー RGC・24Kを試す。これがバーチャルアースの一種であることには気づいていなかった。最近貫陽石を導入して改良された。これをプリアンプで試す。50cmの付属ケーブルにRCA外周のみのコネクタがあり、これをプリアンプの空き端子に接続、本体をアンプのシャーシ下部の電源部付近に挿入。この効果はなるほど、SN比を高めて冴えた中高音へと変化、明瞭にして解像度を高め、低

音は引き締まる。パージョンアップされたことでよりはっきりした効果が分かる。

**オヤイデの電源タップと
 ブラック・フォレストも注目**

夏に発売が予定されているオヤイデのプラグシップ電源ボックス(6個口)もテストした。高SN比でレスポンスに優れ、中低音の厚みや質感表現力が強化され、全体に解像力が向上。これは発売が楽しみだ。

ティグロンから発売されたブラ

ック・フォレストオーディオのレコードスタビライザーは予想外の効果に驚いた。レコードスタビライザーの理想は、重さで加重するのではなく、レコード盤をターンテーブルに密着させると効果が大きいことが分かった。そのことは古くから理解されてきたことだが、この方法を実現したのはブラック・フォレスト社で、その研究は素晴らしい。また、同社のターンテーブルシートも解像度が高く得られ、知りうる製品の中ではベスト3に入るほど、高い実力を持っていた。

BEST HiFi Accessory

2021 SUMMER



ティグロンと10年来のサウンドパートナーであるドイツ、ブラックフォレスト社のフォルカー氏



使用法はセンタースピンドルの長さに合わせ、2mmか3mmのソフトワッシャー(左)の上に盤をセットし、その上からカーボンフリースワッシャー(右)、最後に「DAD! CLAMP」を装着する



「BFA-CLAMP」の上部のつまみはスピンドルを固定するためのもので、下の大きなノブはレーベル部分の外周部に力を加え押し下げるためのもの

外周部に力を加え押し下げるためのもので、レコード面が水平になるように適度に設定する。
実際に試すとレコード盤全体がターンテーブルに吸いつくような密着性の高さだ。
確かにこの効果は大きい。使用すると低域、中低域はもとより、全体に音の緩みが減少して輪郭は明確に、低音は引き締まり、分解力が向上する。また、中音、高音は混濁が排除され、くもりがなく、繊細な倍音成分も冴えていつそう切れ味がよくなる。

● ターンテーブルシート 複合構造の軽量仕様で 力強い中低域を引き出す

一方の同社のターンテーブルシート「BFA・MAT」は5mm厚294mmの。意外に軽量である。カーボンファイバー素材を活用して、内部は発泡状の素材で、硬さのあるシートでサンドイッチした複合構造とわかる。

試すと音の輪郭を明確に描き、解像度が高い。中高音の濁りも減少する。ダイナミックな表現力と中低域の力強さ。さらに中高音は鮮やかな切れ味があり、レスポンスに優れている。くもりやあいまい

なふくらみがなく、この性能であれば解像度のしつかりした正統的な再生が得られるはずだ。筆者の印象としては「合格製品」である。

レコード再生を追求するすべてのアナログファンに薦められる。



Text by
鈴木 裕
Yutaka Suzuki

軽量ながら効果を追求する 画期的な2つのアイテム

ドイツのアナログ関連の製品を作っているメーカーによる画期的なスタビライザーとターンテーブルシートだ。それぞれできちんとした効果があるが、組み合わせ使用とさらに素晴らしい音楽を楽しむことができる名作だ。

まずターンテーブルシートの「BFA・MAT」。素材はカーボンだが内部は発泡構造で、厚さ2mmの割には重さを感じさせない。とにかく意図的に軽く開発している。作動原理は「モーター、ベアリング、内部構造などで生成される余分なエネルギー」を「内部で熱に変換」させて音質を改善するという。これだけでテストすると、

雑味が取れ、音場感の前後の情報をきれいに表現。反応良く、音がすつと前に出てくる。低音のニュアンスの豊富さも美点だ。

そして、これと対になるスタビライザーが「BFA・CLAMP」。本体の素材はカーボン添加剤を調合した特殊樹脂で、重さは100g。これも意図的に軽くしている。他にふたつのパーツがある。レコードの下側のセンターピンに装着する直径3センチくらいのソフトワッシャー(白いパーツで、硬めのスポンジの中心に穴の空いたもの。2mm厚と3mm厚が同梱されている)。それからレコードのレーベル面に乗せるカーボンフリースワッシャー(黒いパーツで、レーベルに接する側がフリス状。上側はツルツルしている薄いシート)。具体的な装着の手順は割愛するが、センターピンをこの「BFA・CLAMP」のチャッキング部がしっかりとくわえ込む形になり、そこを起点として、レコードをレーベル面の外周で押さえ、圧着させる、という働きをするスタビライザーだ。これだけで使用してもかなり効果は大きく、S/N感が大幅に向上し、音像がほぐれ、音楽が立体的に見えるてくる。

合わせて使うと効果は倍増 鳥肌ものの情報量と太い音

「BFA・MAT」と「BFA・CLAMP」を合わせて使うと効果はさらに倍増する。音像ひとつひとつの彫りの深さ、リアルさのレベルが決定的に上がり、情報量が凄い。たとえばギターの6弦を、ジャットと弾いたごくごく短い時間の間に発生している音の表情が見事に見える。しかも、深みのある、太い低音が実に魅力的だ。コクがあるのだ。リアルにしてアナログ的な太い音の世界。聴いていて鳥肌が立ってきた。



ターンテーブルシートの「BFA-MAT」。内部は細かい発泡構造になっていて固い。余分なエネルギーをマット内部で熱に変換するしくみ

ドイツ発の画期的なアイテムが登場

Profile！ 軽量でプレーヤーやスピンドルに負担をかけずに絶大な効果を生み出すアイテムが発売される。ティグロン社代表の沖野氏が長年イメージしていた理想的なクランプとシートを、10年来のサウンドパートナーであるドイツ、ブラックフォレスト社が実現させた形だ。本項では福田雅光氏と鈴木 裕氏がその効果を体験している。

Photo by 田代法生



TIGLON

BFA-CLAMP

レコードスタビライザー

¥49,500(税込)

Specifications

●素材:カーボン添加剤入り特殊樹脂 サイズ:90φ×55Hmm●重量100g

BFA-MAT

ターンテーブルシート

¥19,800(税込)

Specifications

●素材:カーボンファイバー●サイズ:294φ×5Hmm

●レコードスタビライザー

ティグロンより画期的なアナログ用アクセサリーが2種類登場した。もともとはドイツのブラック・フォレスト・オーディオ社の代表、フォルカー・キーン氏がレコード再生の理想を研究した結果として誕生した製品である。

レコードスタビライザー「BFA・CLAMP」は軽量でありながらレコード盤を正確に制御させる画期的な製品だ。盤を密着させるためには、バキューム式等これまでにも各種の製品が登場したが、同アイテムはいたってシンプルなもの。メカニズムである。2mmか3mmのソフトワッシャーの上に盤をセット。その上からカーボンフリースワッシャーをセットした上で、スピンドルにクランプを装着。上部のつまみはターンテーブルのスピンドルを固定するためのもので、下の大きなノブはレーベル部分の

軽量で完全密着を実現
絶大な音質効果を発揮



Text by
福田雅光
Masamitsu Fukuda